

# 3月議会で質問を致しました。

○今回も、質問に対して頂きました答弁の掲載を心掛けてみました。

○詳細は、宇和島市議会のホームページにてどうぞ。発言者の名前や発言内容(単語等)で検索できます。

## 【1】 27年度予算について

1. 27年度予算案策定(26年度補正予算も含め)は、どう進んだか
2. 「公開」は予算案の熟度を高めるとの考えはないか

## 【2】 人事評価をどうする

1. 給与の適正化は、生産性アップにつながると思うが、どう進めるか
2. 現在の職員の人事評価に市民の理解は得られているか

【質問】市役所の生産性アップの方向性や職員の処遇というのはどうしていくのか。臨時・嘱託の職員の処遇改善というものも含め、一生懸命やっている方がその立場・採用の状況ゆえに幾ら頑張っても処遇が改善されない(給与が上がっていかない)というような現実があります。その改善、努力も進めて欲しい。市長の意思をどう捉えて、現在どう給与の適正化というのを図ろうとしているか。

【総務課長】市長からは勤務評定について5段階に区分し、昇級にまで反映させてほしいという指示を受けている。しかし、現在の勤務評定の結果は、Bの割合が非常に大きく、なかなか5段階に移行するところまではいかないという認識している。民間、市民の理解が得られる給与体系を目指すという点について、平成24年度から昇任試験と昇任基準で勤務評定を反映させており、昇任基準についても、1級から2級に上がるところは、直近1回がB以上、それ以上については、直近2回がB以上でなければ昇任できない制度としている。そういう意味において、市民に理解される給与体系に近づいていると考えている。

【総務部長】私たち地方公務員の給与は、地方公務員法に基づき、人事院勧告によって定められている、一概に民間の方と比較するのは難しいと思うが、指摘の通り、働いた者と残念ながら批判を受けるような職員中にはおり、その職員が同じような給料ではおかしいという意見について、勤務評定等の中で、職員が意欲を持つような方向で訂正していきたい。指摘について、そのとおりであると認識している。

3. 同一労働同一賃金の社会的要請にどう答えるか

【質問】職務と責任で給与は決まるという職務給の原則というのが地方公務員法であるのだから、やはり仕事でどれだけするかで決まるべき。例えば、勤勉手当は、基準日以前における直近の人事評価の結果及び基準日以前6カ月以内の期間における勤務の状況に応じて支払うとなっている。期末手当とその点で違い、勤勉手当は、人事評価の結果が影響する。現状で、勤勉手当ともう一つのボーナスである期末手当の違いはあるか。

【総務課長】ある。

【質問】実際にその勤務評定によって差が生じているか。該当する人数は。

【総務課長】A評価の方が28人、B評価の方が635人、C評価が30人ということで、以前と比べてBに集まってきているという傾向にある。

【質問】市長は、S、A、B、C、Dの5段階を望まれているが、今は3段階。Bの方は期末と勤勉手当は変わらない。AとCは若干高かったり安かったりするということか。

【総務課長】そのとおり。

## 【3】 医療費、介護費等の削減のために

1. 27年度における、医療費・介護費の削減のための具体策を問う

【要望】私が言っているのは単純な削減じゃなくて、あくまでも適正化である。積極的に投資をすれば介護予防ができるし、医療機関にかかる頻度、質というのも変わってくるのは、データとして明らかなのだから、取り組むべき問題。にもかかわらず、なかなかこれが進まないのはなぜか。12月の答弁でも、本当にはっきりと答えない。他所でやった良いことは真似をする。その上に、宇和島で独自に何かやろうという発想を持って欲しい。

2. 運動習慣維持を助けるための施策について問う

【要望】プール整備についても提案・要望しました。(活動報告にまとめてみました)

## 【4】 事業に横槓を

1. 株式会社化のボトルネックは何か
2. 都市再生整備計画事業(宇和島駅前整備事業)をどう進めるのか問う
3. 国の「ひと・まち・しごと創生」事業をどう活かすか問う

## 【5】 教育をどうする

1. 【質問】27年度の教育関連予算は、金額的・割合的に、ほかの自治体よりも多いと思うが、その中身を見ると、耐震補強・耐震のための改築が主なもの。学力テストの正答率アップに対してどう予算を組んだか、お考えは？

【教育部長】ここ数年の学力調査の正答率を分析により、指導者によって、あるいは学校の取り組みによって正答率が大きく変動していることがわかった。そこで、教育委員会として、学力テスト正答率アップに向けて、ポイントを次の3つに絞って取り組みを強化した。

①学力の二極化対策として、今日の授業がわからないまま下校させないというキーワードで、日々の授業改善はもちろんのこと、計画的な補充学習を推進し、家庭学習が自力でできるまで、学校での指導を徹底している。そして、低学力の層の引き上げに今現在努めている。

②昨年度から実施しているCRTテストの継続的実施により、正答率の変化をいろいろな角度から分析することで、教師の指導方法を検証していく。

③中学校と中学校が連携した校内研修を充実させていく。この2月には、城北中学校で各校の数学の主任が集まり、数学の研究会をもつ等、取り組みをスタートしている。

以上、3点が学力正答率アップの宇和島の予算化された具体策である。

2. 【要望】学力テストというのは、決して受験偏重ではなくて、ましてや学問が全てだということではないが、家庭の問題が成績に影響している。育っていく環境の写し子どもの成長であり、子どもの環境の第一は家庭である。例えば、ひとり親で苦労する家庭への対応など、市役所の組織を横断的に機能させ、事業に横槓しを刺してサポートをお願いしたい。

2015年8月



武田元介ニュースレター Vol.7

黎明  
REI MEI

2月4日 震災地視察(津波避難ビル)



## 【プロフィール】

宇和島市恵美須町生まれ(54歳)  
天神小学校 卒業  
宇和島市和霊町へ転居  
城北中学校・宇和島東高・岡山大学 卒業  
(株)加ト吉勤務後、宇和島漬物食品(株) 入社  
宇和島市大浦へ転居  
宇和島市栄町港に転居

【趣味】マラソン・トライアスロン  
家事・育児・読書



㊦ 白魚まつり



㊦ 毛利修三事務所開き



㊦ まちひとしごと



㊦ 宇和島東高定時制卒業式



㊦ 大武者行列



㊦ ようこそレドニアスカイ

あなたも「武田元介ニュースレター 黎明」の  
読者登録しませんか?~他人事でなく自分事~

読者登録していただきますと、「武田元介ニュースレター 黎明」を毎月(年4回の予定)お届けいたします。是非、下記までお申し込みください。

メール [m\\_takeda@motosuke.net](mailto:m_takeda@motosuke.net)  
FAX 0895-24-5610

皆さんの声を聞かせてください

ミニ集会・座談会お申し込み、少ない人数でもかまいません。武田元介が伺わせていただきます。

皆様で自主開催されるミニ集会や座談会に是非参加させていただけたらと思います。「ママ友が集まる会・近所やスポーツ仲間が集まる会」など、どんな会でもかまいません。是非伺わせていただいてお話を聞かせ下さい。

facebook

ブログの更新やツイートのまとめなど、いろんな情報を発信しています。

twitter

時々つぶやいています。フォローお願いします。 @TakedaMotosuke

政策発信

<http://motosuketrd.blog.fc2.com/>